

モデル事業に向けた調査項目の選定について

平成18年度 高齢者介護実態調査では、現在、要介護認定を行うために必要な項目（82項目）と新規項目（110項目）、その他について調査を行った。

今後、認定審査と並行して、現在行われている認定調査を活用しながらデータ収集を行うモデル事業（第一次）を実施することとしている。

従って、モデル事業（第一次）実施期間中も現行の認定審査を行うことから、現行の認定審査に必要な項目（82項目）については、引き続き調査を行う必要がある。

その他の項目（110項目）については、下記の条件により選定された、有用と考えられる項目についてのみデータの収集を行うこととする。

（選定の流れについては別添1を参照）

○選定条件1（別添2-1）

要介護（要支援）区分毎の回答構成に差があるかの確認を行い、差のない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

○選定条件2（別添2-2）

要介護（要支援）区分と回答に付された順序に関係がないか検証し、群間で差がない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

○選定条件3（別添2-3）

回答（選択肢）別のケア時間に差があるかを確認し、差のない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

○選定条件4（別添2-4）

既存の認定調査項目（82項目）と回答傾向が類似する設問については、既存の設問で代用可能であることから除外対象とする。

○選定条件 1～4 を用いて選定を行った結果、選定された項目については以下のとおり。

(条件 1～4 による選定状況のまとめは別添 2－5 参照)

11-3-1	物や人等に対する強いこだわり	14-10	感覚刺激に過敏に反応
11-3-2	多動	14-11	新しい環境等で情緒不安定になる
11-3-3	行動の停止	14-12	いつもの手順変更を許さない
11-3-5	自傷行為	14-13	具体的な作業指示が必要
11-3-6	破壊行為	14-14	比喩(たとえ話)を理解できない
11-3-9	環境変化で通常と違う声を出す	14-15	気持ちの切り替えができない
11-3-15	一日中横になったり、自室に閉じこもる	14-16	同時に二つのことをできない
11-3-16	話がまとまらず、会話にならない	14-17	要求を断れず、人の言いなりになる
11-3-17	やりかけたことを途中で投げ出す	14-19	一人になることを嫌がる
12-1	調理(献立を含む)	14-20	気になることにひどく心配する
12-2	食事の配膳・下膳(運ぶこと)	14-21	戸締りを忘れる
12-3	掃除(整理整頓を含む)	14-23	知覚鈍磨(痛みを認識しない)
12-4	洗濯	14-24	気を引くためにトラブルを起こす
12-5	入浴の準備と後片付け	14-25	意味もなく独り言や独り笑いをする
12-6	買い物	14-26	集団への参加ができない
12-7	交通手段の利用	15-2	栄養バランスのある食事をする
13-1	簡単な調理	15-7	職を得るための活動をする
13-2	手のこんだ調理	15-8	いったん得た職を持続する
13-3	衣服の洗濯と乾燥	15-10-1	作業場面で課題に合わせて行動する
13-4	食事の後片付けと食器洗い	15-10-2	作業場面で手順に沿った用意をする
13-5	掃除	16-2	補装具の状況
13-7	ごみ捨て	16-3	ひとりでの外出
13-8	寝具の準備及び片付け	16-8-5	訪問者 福祉サービス職員
13-11	情報機器	16-9	日中の過ごし方
14-2	安全の判断ができない	16-10	1年前の身体状態と比較した状態
14-3	損傷の判断ができない	17-1	指示された日時に通院出来る
14-4	役割が解らずに誤解で行動する	17-6	寝つきについて
14-7	昼間から寝ていたり閉じこもる	17-8	昼寝
14-8	唐突な話や行動	17-10	髭剃り
14-9	自分勝手に行動する		

○選定条件5

条件1～4を用いて選定された項目（59項目）について、さらに、下記の条件により選定を行う。

選定条件： 次の①～②の条件により除外対象となる設問を決定する。

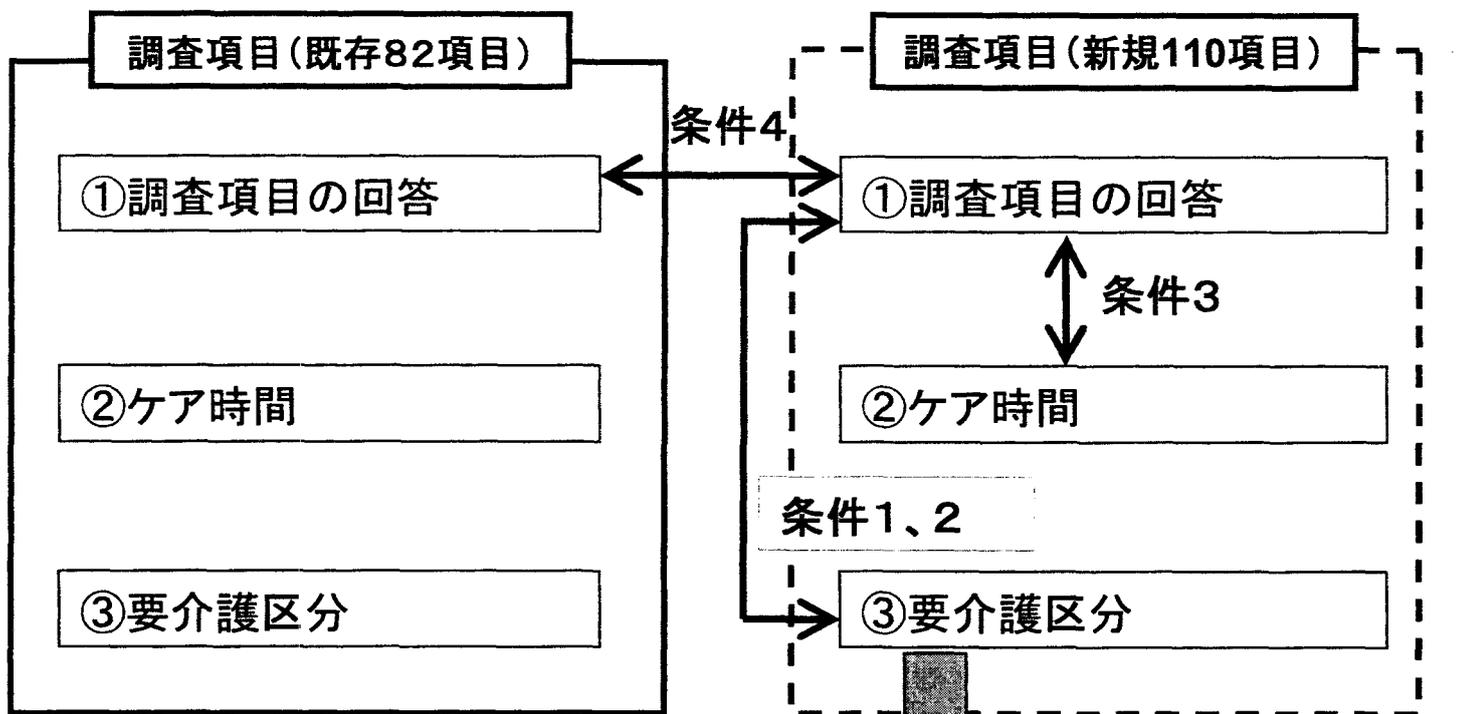
- ① 回答に著しい偏りがある設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。
- ② 客観性が担保できない等認定調査項目として適切でないと考えられる項目については除外対象とする。

○条件5を用いて選定を行った結果、選定された項目については以下のとおり。
（条件5－①及び5－②による選定状況のまとめは別添2－6参照）

要介護認定モデル事業（一次）の調査項目（案）

11-3-16	話がまとまらず、会話にならない
12-6	買い物
14-9	自分勝手に行動する
14-11	新しい環境等で情緒不安定になる
14-13	具体的な作業指示が必要
14-15	気持ちの切り替えができない
14-16	同時に二つのことをできない
14-17	要求を断れず、人の言いなりになる
14-20	気になることにひどく心配する
14-25	意味もなく独り言や独り笑いをする

モデル事業に向けた調査項目の選定の流れ図



条件1:どの要介護区分の者であっても回答構成が似ている項目は除外

条件2:どの要介護区分と調査項目の回答に付された順序とに関係がない項目は除外

条件3:調査項目の回答が異なってもケア時間に差が出ない項目は除外

条件4:既存調査項目の回答との関連性があり、既存項目で代用可能な項目は除外

条件5:その他、認定調査項目として適切でないと考えられる項目は除外

残り59項目

条件5による選別

要介護認定モデル事業(第一次)に追加する調査項目(案)

10項目

項目選定条件について①

[条件1] 回答(選択肢)と二次判定のクロス表を作成し、 χ^2 値による検定を実施し、
二次判定別の回答構成に差があるかを確認
選定条件: 検定結果が 0.1%の有意水準を満たさない設問を除外対象とする

《×:除外の例》

「検定結果が 0.1%の有意水準を満たさない」

16-8-6 訪問者 医療関係職 (要支援1・要支援2を除く)

設問	選択肢	要介護度					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
16-8-6 訪問者 医療関係者	1 毎日	171	278	544	653	686	2,332
	2 1回/週	6	20	41	51	46	164
	3 1回/月	4	7	13	13	11	48
	4 ない	90	156	218	257	242	963
		271	461	816	974	985	3,507

$\chi^2=23.7$ 有意確率 $P=0.023 > 0.1\%$

《○:選定の例》

「検定結果が 0.1%の有意水準を満たしている」

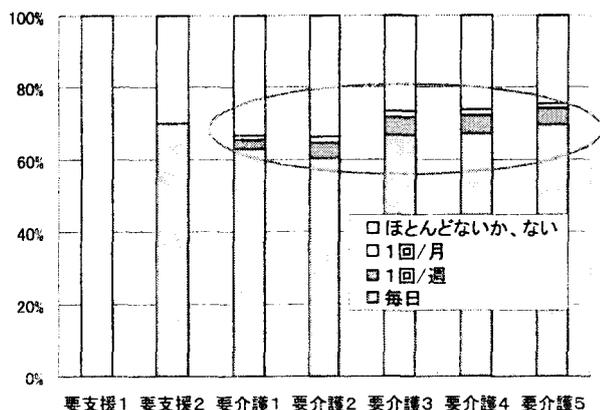
14-7 昼間から寝ていたり閉じこもる (要支援1・要支援2を除く)

設問	選択肢	要介護度					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
14-7 昼間から寝ていたり 閉じこもる	1 ない	181	302	552	733	865	2,633
	2 まれにある	41	54	95	70	16	276
	3 ときどきある	23	52	76	61	13	225
	4 よくある	26	53	93	110	91	373
		271	461	816	974	985	3,507

$\chi^2=199.0$ 有意確率 $P=0.000 < 0.1\%$

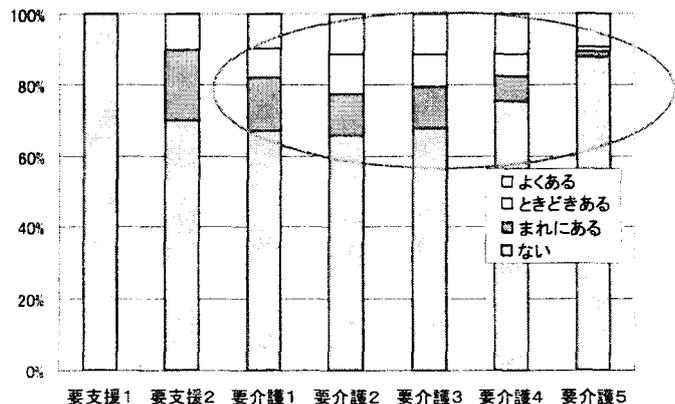
要介護度別の回答構成の差が小さい

16-8-6 訪問者 医療関係職



要介護度別の回答構成の差が大きい

14-7 昼間から寝ていたり閉じこもる



項目選定条件について③

[条件3] 回答(選択肢)と施設調査ケア時間の関係を一元配置分散分析で確認し、

回答(選択肢)別のケア時間に差があるかを確認

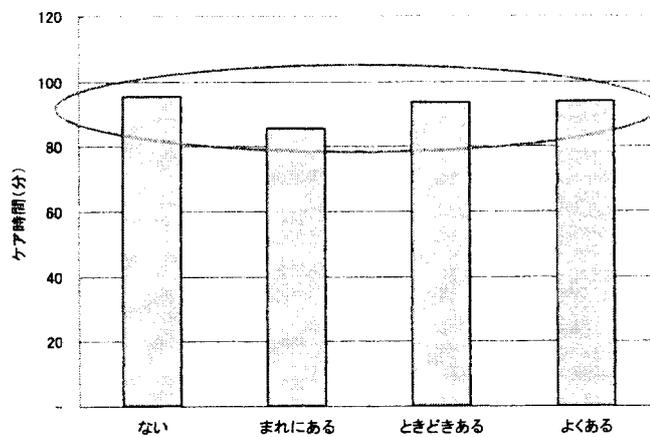
選定条件: 検定結果が0.1%の有意水準を満たさない設問を除外対象とする

《×:除外の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たさない」

14-5 過度に悲観的になる 有意確率 $P=0.014 > 0.1\%$

過度に悲観的になる



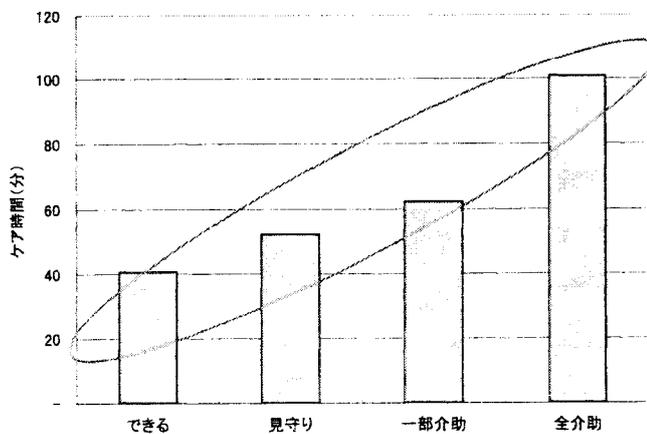
回答選択肢別のグループ間のケア時間に統計的に差がない

《○:選定の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たしている」

13-7 ごみ捨て 有意確率 $P=0.000 < 0.1\%$

ごみ捨て



回答選択肢別のグループ間のケア時間に差がある

項目選定条件について④

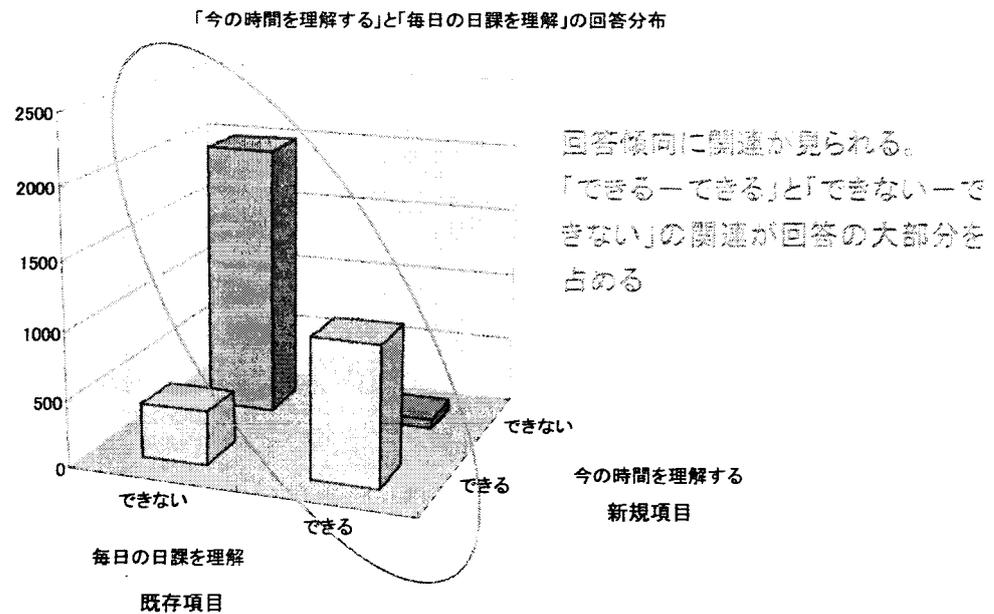
[条件4] 既存の認定調査項目(7群まで)と回答傾向が類似する設問を除外

選定条件: 既存の認定調査項目(7群まで)と新規項目のクロス表を作成し、
既存項目との関連性を示す独立係数が高い(0.5以上)設問を除外対象とする。

《×;除外の例》

「既存項目との関連性を示す独立係数が高い(0.5以上)」

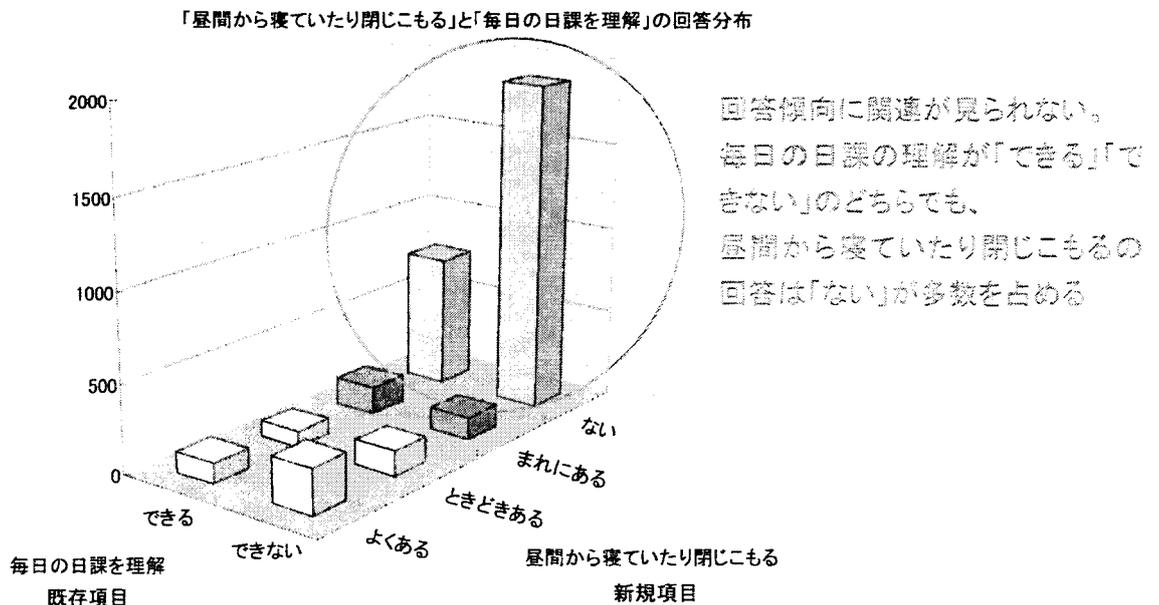
新規項目である「15-12 今の時間を理解する」と既存項目の「6-5-7 毎日の日課を理解」
の独立係数=0.721 > 0.5



《○;選定の例》

「既存項目との関連性を示す独立係数が低い(0.5未満)」

新規項目である「14-7 昼間から寝ていたり閉じこもる」と既存項目の「6-5-7 毎日の日課を理解」
の独立係数
=0.159 < 0.5



条件1～4による選定状況のまとめ(案)

	設 問	条件 1 χ 検定	条件 2 Kruskal Wallis	条件 3 分散分析	条件 4 独立係数	判定
Q6.5ウ	年齢をいう				×	
11-1	独自の表現方法				×	
11-2	言葉以外を用いた説明の理解				×	
11-3-1	物や人等に対する強いこだわり					○
11-3-2	多動					○
11-3-3	行動の停止					○
11-3-4	パニックや不安定な行動			×		
11-3-5	自傷行為					○
11-3-6	破壊行為					○
11-3-7	突然抱きついたりする	×	×	×		
11-3-8	断りもなく物を持ってくる				×	
11-3-9	環境変化で通常と違う声を出す					○
11-3-10	突然走るような突発的行動			×		
11-3-11	過食、反すう等			×		
11-3-12	悲観的、思考力の低下			×		
11-3-13	再三の手洗いや、繰り返し動作			×		
11-3-14	緊張のため外出できない			×		
11-3-15	一日中横になったり、自室に閉じこもる					○
11-3-16	話がまとまらず、会話にならない					○
11-3-17	やりかけたことを途中で投げ出す					○
11-3-18	現実以上に高く自己を評価する			×		
11-3-19	他者に疑い深く拒否的である			×		
12-1	調理(献立を含む)					○
12-2	食事の配膳・下膳(運ぶこと)					○
12-3	掃除(整理整頓を含む)					○
12-4	洗濯					○
12-5	入浴の準備と後片付け					○
12-6	買い物					○
12-7	交通手段の利用					○
12-8	文字の視覚的認識使用				×	
13-1	簡単な調理					○
13-2	手のこんだ調理					○
13-3	衣服の洗濯と乾燥					○
13-4	食事の後片付けと食器洗い					○
13-5	掃除					○
13-6	テレビ、照明等の器具使用				×	
13-7	ごみ捨て					○
13-8	寝具の準備及び片付け					○
13-9	日常的なお金の使い方				×	
13-10	薬の管理				×	
13-11	情報機器					○
13-12	身の回りの整理整頓				×	

	設 問	条件 1 χ 検定	条件 2 Kruskal Wallis	条件 3 分散分析	条件 4 独立係数	判定
14-1	物事の選択や意思決定をできない				×	
14-2	安全の判断ができない					○
14-3	損得の判断ができない					○
14-4	役割が解らずに誤解で行動する					○
14-5	過度に悲観的になる			×		
14-6	自殺をほのめかす	×	×	×		
14-7	昼間から寝ていたり閉じこもる					○
14-8	唐突な話や行動					○
14-9	自分勝手に行動する					○
14-10	感覚刺激に過敏に反応					○
14-11	新しい環境等で情緒不安定になる					○
14-12	いつもの手順変更を許さない					○
14-13	具体的な作業指示が必要					○
14-14	比喩(たとえ話)を理解できない					○
14-15	気持ちの切り替えができない					○
14-16	同時に二つのことをできない					○
14-17	要求を断れず、人の言いなりになる					○
14-18	性的な行動上の問題	×	×	×		
14-19	一人になることを嫌がる					○
14-20	気になることにひどく心配する					○
14-21	戸締りを忘れる					○
14-22	一人で勝手に外出する			×		
14-23	知覚鈍磨(痛みを認識しない)					○
14-24	気を引くためにトラブルを起こす					○
14-25	意味もなく独り言や独り笑いをする					○
14-26	集団への参加ができない					○
15-1	貴重品の管理				×	
15-2	栄養バランスのある食事をする					○
15-3	ストレスを解消する				×	
15-4	趣味や余暇時間を楽しむ				×	
15-5	友人を作り、その関係を維持する				×	
15-6	困ったときに人に助けを求める				×	
15-7	職を得るための活動をする					○
15-8	いったん得た職を持続する					○
15-9	選挙へ行き自らの意思で投票する				×	
15-10-1	作業場面で課題に合わせて行動する					○
15-10-2	作業場面で手順に沿った用意をする					○
15-11-1	日常生活で課題に合わせて行動する				×	
15-11-2	日常生活で手順に沿った用意をする				×	
15-12	今の時間を理解する				×	
15-13	11 以上のものの数を数える				×	
15-14	文字の読み書き				×	
16-1	現在の生活状況	×	×	×		
16-2	補装具の状況					○
16-3	ひとりでの外出					○

	設 問	条件 1 χ^2 検定	条件 2 Kruskal Wallis	条件 3 分散分析	条件 4 独立係数	判定
16-4	季節や状況にあった服を選ぶ				×	
16-5	郵便物や宅配便の処理				×	
16-6	毎日の移動範囲			×		
16-7	外出の理由			×		
16-8-1	訪問者 同居していない家族	×	×			
16-8-2	訪問者 友人			×		
16-8-3	訪問者 近隣の住民		×	×		
16-8-4	訪問者 福祉施設職員		×			
16-8-5	訪問者 福祉サービス職員					○
16-8-6	訪問者 医療関係職	×	×	×		
16-9	日中の過ごし方					○
16-10	1年前の身体状態と比較した状態					○
17-1	指示された日時に通院出来る					○
17-2	たんの吸引				×	
17-3	インスリンの注射	×	×	×		
17-4	てんかん発作	×	×	×		
17-5	片手胸元持ち上げ				×	
17-6	寝つきについて					○
17-7	夜中の目覚めの回数	×	×			
17-8	昼寝					○
17-9	生理の処置		×	×		
17-10	髭剃り					○
17-11	洗髪				×	

条件5-①及び5-②による選定状況のまとめ(案)

- ① 回答に著しい偏りがないこと(1つの選択しに回答が90%以上集中していないもの)
 ② 客観性が担保できない等認定調査項目として適切でないと考えられるものは除外(×)

	調査項目	①	②	②の理由
11-3-1	物や人等に対する強いこだわり	○	×	加齢に起因する状態の質問ではないため不適
11-3-2	多動	○	×	加齢に起因する状態の質問ではないため不適
11-3-3	行動の停止	×		
11-3-5	自傷行為	×		
11-3-6	破壊行為	×		
11-3-9	環境変化で通常と違う声を出す	○	×	加齢に起因する状態の質問ではないため不適
11-3-15	一日中横になったり、自室に閉じこもる	○	×	意欲の問題であり、介護の要否に関係しない
11-3-16	話がまとまらず、会話にならない	○		
11-3-17	やりかけたことを途中で投げ出す	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
12-1	調理(献立を含む)	×		
12-2	食事の配膳・下膳(運ぶこと)	×		
12-3	掃除(整理整頓を含む)	×		
12-4	洗濯	×		
12-5	入浴の準備と後片付け	×		
12-6	買い物	○		
12-7	交通手段の利用	×		
13-1	簡単な調理	×		
13-2	手のこんだ調理	×		
13-3	衣服の洗濯と乾燥	×		
13-4	食事の後片付けと食器洗い	×		
13-5	掃除	×		
13-7	ごみ捨て	○	×	居住環境により回答が変わりうるため不適
13-8	寝具の準備及び片付け	×		
13-11	情報機器	○	×	使用する機器により回答が変わりうるため不適
14-2	安全の判断ができない	○	×	加齢に起因する状態の質問でないため不適
14-3	損得の判断ができない	○	×	加齢に起因する状態の質問でないため不適
14-4	役割が解らずに誤解で行動する	○	×	加齢に起因する状態の質問でないため不適
14-7	屋間から寝ていたり閉じこもる	○	×	意欲の問題であり、介護の要否に関係しない

	調査項目	①	②	②の理由
14-8	唐突な話や行動	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
14-9	自分勝手に行動する	○		
14-10	感覚刺激に過敏に反応	○	×	疾病による影響と考えられるため不適
14-11	新しい環境等で情緒不安定になる	○		
14-12	いつもの手順変更を許さない	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
14-13	具体的な作業指示が必要	○		
14-14	比喩(たとえ話)を理解できない	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
14-15	気持ちの切り替えができない	○		
14-16	同時に二つのことをできない	○		
14-17	要求を断れず、人の言いなりになる	○		
14-19	一人になることを嫌がる	×		
14-20	気になることにひどく心配する	○		
14-21	戸締りを忘れる	○	×	地域、住居環境などにより回答が変わりうるため不適
14-23	知覚鈍磨(痛みを認識しない)	×		
14-24	気を引くためにトラブルを起こす	×		
14-25	意味もなく独り言や独り笑いをする	○		
14-26	集団への参加ができない	○	×	意欲の問題であり、介護の要否に関係しない
15-2	栄養バランスのある食事をする	×		
15-7	職を得るための活動をする	×		
15-8	いったん得た職を持続する	×		
15-10-1	作業場面で課題に合わせて行動する	○	×	授産施設利用を想定したもので不適
15-10-2	作業場面で手順に沿った用意をする	○	×	授産施設利用を想定したもので不適
16-2	補装具の状況	×		
16-3	ひとりでの外出	×		
16-8-5	訪問者 福祉サービス職員	○	×	居住環境(在宅、施設内等)により前提が異なる
16-9	日中の過ごし方	○	×	季節、曜日、環境等の条件により異なる
16-10	1年前の身体状態と比較した状態	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
17-1	指示された日時に通院出来る	×		
17-6	寝つきについて	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
17-8	昼寝	○	×	客観的な判断が難しい(主観的な要素に影響されやすい)
17-10	髭剃り	○	×	男性に限定した項目であり不適